

令和6年度各会計の決算をご審議いただくにあたり、各会計歳入歳出決算書並びに決算説明書、決算審査意見書等を提出したところではありますが、審査に先立ちまして、各会計決算の大綱をご説明申し上げます。

令和6年度の当初予算は、

一 般 会 計	2 1 1 億 6, 2 0 0 万円
特 別 会 計	9 7 億 6, 5 3 3 万円
下水道事業会計支出	2 2 億 3, 8 1 4 万円
病院事業会計支出	8 5 億 2, 3 7 6 万円

合わせて、4 1 6 億 8, 9 2 3 万円を計上したところではありますが、その後計上した補正予算と令和5年度からの繰越事業費繰越額を加えた最終予算額は、

一 般 会 計	2 5 1 億 8, 9 0 4 万円
特 別 会 計	1 0 2 億 4 8 6 万円
下水道事業会計支出	2 3 億 6, 0 5 3 万円
病院事業会計支出	8 7 億 6, 7 2 9 万円

合わせて、4 6 5 億 2, 1 7 2 万円となったところでもあります。

令和6年度は、総合計画に掲げたまちの将来像実現に向けた施策を推進するとともに、安定的な財政運営を目指し、事務・事業の効率化及び財源確保に向けた市税の収入率向上、ふるさと納税の積極的な推進に努めてきましたが、市立病院の経営が悪化し、今後の収支改善を図る必要が生じたことから、財政安定に向けた全市的な取り組みが急務となりました。

そのような中においても、市民の皆様が安心して暮らせるまちづくりを目指し、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金をはじめとする国の補助金等を活用した事業を実施したほか、子育て施策を更に充実・強化するために「滝川市こども計画」を策定したところです。

以下、会計ごとに主な内容について申し上げます。

一般会計におきましては、歳入 2 4 7 億 8, 5 0 4 万円に対し、歳出 2 3 8 億 1, 0 2 6 万円で、差引 9 億 7, 4 7 8 万円の剰余を生じました。

歳入につきましては、収入済額と予算現額を比較しますと、4 億 4 0 0 万円の減となっております、その主な内容は、

繰越金	2 億 3, 6 8 3 万円	
寄附金	1 億 4, 4 6 2 万円	
市税	1 億 3, 5 8 0 万円	
地方交付税	6, 6 5 8 万円	
地方消費税交付金	5, 6 4 7 万円	の増となり、
国庫支出金	5 億 8 1 万円	
繰入金	2 億 6, 6 6 0 万円	
市債	2 億 2, 5 6 0 万円	
使用料及び手数料	2, 4 3 9 万円	
諸収入	2, 3 8 5 万円	の減となったこと
などによりますが、		

令和7年度に歳入されるべき繰越明許費に係る歳入予算額が、国庫支出金で2億7,335万円、地方債で8,190万円、計3億5,525万円計上されておりますことから、歳入は実質的に4,875万円の減となったところです。

一方、歳出におきましても、予算現額と支出済額を比較しますと、13億7,878万円の減となっておりますが、くらし応援クーポン券事業など繰越明許費として令和7年度に繰越して歳出することを決定した予算額が4億4,110万円計上されておりますことから、実質的には9億3,768万円の減となりました。

歳入についてみますと、市税、寄附金、使用料及び手数料などの自主財源は全体の35.8%、地方交付税、国・道支出金、市債などの依存財源は64.2%となっております。

自主財源の内訳といたしましては、

市税	43億1,018万円
寄附金	15億2,359万円
諸収入	13億9,165万円
繰越金	9億1,757万円
使用料及び手数料	4億168万円
繰入金	1億4,427万円
分担金及び負担金	1億2,443万円
財産収入	6,760万円 となり、

依存財源の内訳は、

地方交付税	77億	72万円
国・道支出金	54億1,004万円	
市債	11億9,300万円	
地方消費税交付金	10億5,858万円	
その他	5億4,173万円	となっております。

一方、歳出につきまして、性質別にみますと、

扶助費	47億4,504万円	
補助費等	43億1,730万円	
人件費	34億7,579万円	
物件費	23億6,316万円	
繰出金	21億5,419万円	
建設事業費	17億5,929万円	
積立金	16億5,050万円	
公債費	14億1,641万円	
維持補修費	8億8,430万円	
貸付金	8億3,652万円	
出資金	2億	776万円 となっております。

つぎに特別会計につきましては、特別会計全体として、歳入99億855万円に対し、歳出95億25万円で、差引4億830万円の剰余を生じました。

国民健康保険特別会計では、歳入決算額41億5,065万円、歳出決算額41億5,065万円で歳入歳出同額となっており剰余金は発生しておりません。

歳入についてみますと、

道支出金	31億7,273万円	
国民健康保険税	5億4,596万円	
繰入金	4億1,496万円	
諸収入などその他	1,700万円	となったところです。

一方、歳出についてみますと、

保険給付費	30億5,464万円	
国民健康保険事業費納付金	9億5,422万円	
総務費	7,516万円	
保健事業費	4,859万円	
諸支出金などその他	1,804万円	となりました。

公営住宅事業特別会計では、歳入決算額8億9,931万円、歳出決算額8億978万円で差引8,953万円の剰余を生じました。

歳入についてみますと、

使用料及び手数料	2億9,103万円	
繰入金	2億6,637万円	
市債	2億3,870万円	
繰越金	1億140万円	
その他財産収入、諸収入	181万円	となったところです。

一方、歳出についてみますと、

住宅事業費	5億7,669万円
公債費	2億2,838万円
諸支出金	471万円 となりました。

介護保険特別会計では、まず保険事業勘定で、歳入決算額40億3,722万円、歳出決算額37億7,013万円で差引2億6,709万円の剰余を生じました。

歳入についてみますと、

支払基金交付金	8億6,510万円
国庫支出金	8億4,230万円
介護保険料	6億7,797万円
繰入金	5億8,197万円
繰越金	5億6,874万円
道支出金	4億9,070万円
その他財産収入、諸収入	1,044万円 となったところです。

一方、歳出についてみますと、

保険給付費	29億941万円
基金積立金	3億7,229万円
地域支援事業費	3億1,249万円
総務費	1億2,342万円
その他保健福祉事業費、諸支出金	5,252万円 となりました。

また、介護サービス事業勘定では、歳入決算額6,595万円、歳出決算額

1, 428万円で、差引5, 167万円の剰余を生じました。

歳入についてみますと、

繰越金	4, 797万円	
サービス収入	1, 792万円	
諸収入	6万円	となったところです。

一方、歳出についてみますと、

サービス事業費	1, 428万円	となりました。
---------	----------	---------

後期高齢者医療特別会計では歳入決算額7億5, 542万円、歳出決算額7億5, 541万円で差引1万円の剰余を生じました。

歳入についてみますと、

後期高齢者医療保険料	5億2, 308万円	
繰入金	2億2, 922万円	
繰越金などその他	312万円	となったところです。

一方、歳出についてみますと、

後期高齢者医療広域連合納付金	7億3, 287万円	
保健事業費	1, 140万円	
総務費などその他	1, 114万円	となりました。

つぎに企業会計について申し上げます。

下水道事業会計の収益的収支では、事業収益１２億８，５２６万円に対し、事業費用１２億２，１６７万円で、６，３５９万円の純利益となりました。

また、資本的収支では、収入３億８，２１３万円に対し、支出８億３，７２８万円で、差引不足額４億５，５１５万円となり、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額、過年度分損益勘定留保資金及び減債積立金で補てんしました。

病院事業会計の収益的収支では、事業収益６２億６，９２９万円に対し、事業費用は７３億５，６７８万円となり、１０億８，７４９万円の純損失となりました。

また、資本的収支では、収入２億６，６６１万円に対し、支出８億６１６万円で、差引不足額５億３，９５５万円となり、過年度分損益勘定留保資金で補てんしました。

以上、各会計の決算の内容についてご説明申し上げます。

令和６年度決算に基づく健全化判断比率については、今議会において、報告第１号、報告第２号として健全化判断比率及び資金不足比率の報告を行ったところでありますが、いずれの指標についても健全段階であります。

令和６年度は、ふるさと納税の推進や事務・事業の効率化等により１６億円以上の基金積立を行うことが出来ましたが、市立病院の収支改善や公共施設の整備など、解決すべき課題が山積しているため、今後も一層財政の健全化を進め、その状況について透明性をもってお知らせしていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

令和６年度各会計の決算の詳細につきましては、事前配布させていただきました、款別説明概要にてお示ししておりますので、よろしくご審議をいただき、ご認定いただきますようお願い申し上げます。